| 都道府県名 | 石川 |
|---|---|

Ⅰ　学校の概要（平成１５年４月現在）

| 学校名 | 加賀市立片山津小学校 | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学　年 | １年 | ２年 | ３年 | ４年 | ５年 | ６年 | 特殊学級 | 計 | 教員数 |
| 学級数 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 14 | 24 |
| 児童数 | 59 | 59 | 50 | 49 | 47 | 56 | 4 | 327 | |

Ⅱ　研究の概要

１．研究主題

『認め合い学び合う』片小っ子

２．研究内容と方法

(1)　実施学年・教科

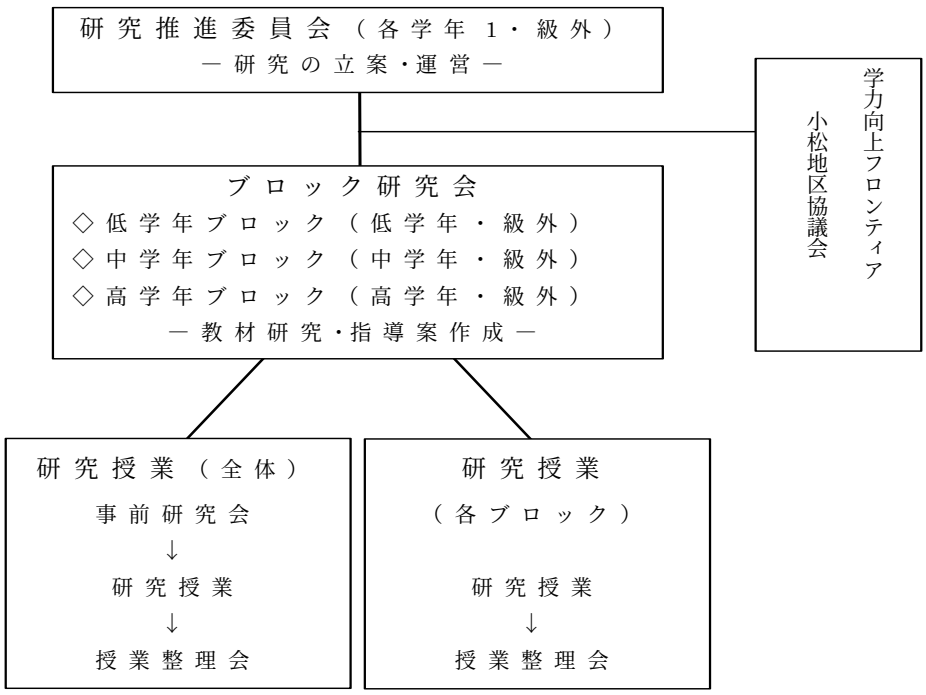
・２，３，４年生・算数
児童の理解の状況に差が出やすい教科，学年であるため。

(2)　年次ごとの計画

| | |
|---|---|
| 平成15年度 | ○　テーマ<br>基礎・基本を土台に，話す・聞く力を培う<br><br>○　仮説<br>算数科で基礎・基本の定着をめざし，個に応じた学習支援や評価を工夫するならば，児童の中に数の概念が形成され数学的思考力が生まれてくる。そうした力は「話す・聞く」の基本的な態度育成にもつながり，「認め合い学び合う」場の広がりと児童の確かな学力向上につなげることができる。<br><br>○　研究の内容・方法<br>・研究計画の作成（研究の方向の確認）<br>・校内研究会　　（全校による授業研究と研究協議）<br>・ブロック研究会（低・中・高　各ブロックによる授業研究と研究協議）<br>・先進校視察・フロンティアスクールとの情報交換，協議等<br><研究の重点><br>①算数科で基礎・基本の定着を図る指導の工夫<br>②少人数授業による，習熟度別学習や等質集団学習の効果を上げる工夫やＴＴによるきめ細かな指導の工夫<br>③個を活かし，指導に結びつく評価の工夫<br>④評価規準や評価計画の見直しと作成 |

| | |
|---|---|
| 平成16年度 | ○　テーマ<br>　　基礎・基本を土台に，話す・聞く力を培う（予定）<br><br>○　仮説<br>　算数科で基礎・基本の定着をめざし，個に応じた学習支援や評価を工夫するならば，児童の中に数の概念が形成され数学的思考力が生まれてくる。また，そうした力を話し合いの場でも効果的に発揮できるような学習支援を考えていくならば，「話す・聞く」の基本的な態度育成にもつながり，「認め合い学び合う」場の広がりと児童の確かな学力向上につなげることができる。<br><br>○　研究の内容・方法<br>・実践の検証とまとめ<br>・校内研究会　　（全校による授業研究と研究協議）<br>・ブロック研究会（低・中・高　各ブロックによる授業研究と研究協議）<br>・研究発表会（公開授業と研究発表）<br>・地区の小学校・フロンティアスクールとの情報交換，協議等<br><研究の重点><br>①算数科で基礎・基本の定着を図る指導の工夫<br>②少人数授業による，習熟度別学習や等質集団学習の効果を上げる工夫やＴＴによるきめ細かな指導の工夫<br>③基礎・基本をもとに，思考力・判断力・表現力を伸ばす指導の工夫<br>④個を活かし，指導に結びつく評価の工夫 |

(3)　研究推進体制




＊各学年１回の授業研究を行う。
＊指導主事学校訪問日と合わせて研究授業を行う。

## Ⅲ　平成１５年度の研究の成果及び今後の課題

### １．研究の成果

①　算数科の少人数指導において，習熟度別学習や等質集団学習の授業形態を積極的に取り入れるようにした。その導入に当たっては，教材内容や児童の実態を考慮し，単元毎にどのような形態で実践するかを相談しながら進めるようにした。また，集団編成のためのレディネステストも指導のねらいが反映されたものになるよう問題内容も検討しながら実施するようにした。

　その授業形態は子どもたちにとっても新鮮であり，これまで以上に意欲を持って授業に取り組んでくれるようになった。

　アンケート結果からも少人数になったことで，「授業がよく分かるようになった。」「人数が少ないのでプリント演習が以前よりたくさんできるようになった。」「質問がしやすくなった。」など肯定的に受け止める意見が圧倒的に多かった。

②　本校の学力観をめぐって「基礎・基本」と「話す・聞く」の関連，あるいは国語科と算数科の「話す・聞く」のちがいなど，年度当初そのとらえ方をどうすればよいかということについて紆余曲折が見られた。しかし，実践と議論を深めていく中で，「読み・書き・計算」の土台に立った「話す・聞く」活動の充実，また「話す・聞く」についても「数学的コミュニケーション」ということばをキーワードに算数には算数なりのめざすべき「話す・聞く」活動があるということを確認できたことは成果であった。

③　子どもたちの学力を確かなものにしていくための，さまざまな工夫が行われた。例えば，少人数の中でも「グループ学習」を取り入れることで，話し合い活動でもよりきめ細かな対応をすることができた。みんなの前で話せなくてもグループの中でだと自分の言葉で話せる子も多く，そうした実践が子どもたちの話す活動への抵抗感を少なくし，より積極的な学習姿勢を引き出すことにつながった。また，割算やたし算・ひき算の筆算の学習では，その方法をアルゴリズムとして捉えていくことで，子どもたちの計算ミスや計算上のつまずきをアルゴリズムから判断することができ，指導の手立てを明確にしていくことができた。

### ２．今後の課題

①　研究のねらいである「話す・聞く」活動と少人数授業の果たすべき役割との関連についてさらに実践を深めていくこと。

②　習熟度別学習や等質集団学習も含めて，確かな学力を定着していくためにより効果的なクラス分けの仕方を探っていくこと。また，少人数授業のよさを引き出せる指導法の更なる追究をしていくこと。

③　子どもたちが学習に打ち込みやすい環境整備を進めること。
例えば，教室から遠い所にある利用教室の改善，実践したドリル・プリントを入れるための整理棚の充実など。

④　単元の評価計画や評価規準を明確にし，指導と評価が一体化した実践をさらに進めていくこと。

⑤　基礎・基本のとらえ方，学力のとらえ方を再検討し共通理解を進めていくこと。

Ⅳ　学力等把握のための学校としての取組

・基礎学力調査（石川県主催）の実施と分析
・アンケート実施

Ⅴ　フロンティアスクールとしての研究成果の普及

・本年度の研究のまとめを冊子にして，管内の学校に配布する。
・少人数の授業研究会を校区および群市内の小・中学校に案内し，授業を公開する。
・保護者や地域の人たちに授業を公開し，フロンティアスクールの取り組みの状況や成果を知らせる。
・平成16年度は研究発表会を開催する。

◇　次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】　・１５年度からの新規校　□１４年度からの継続校

【学校規模】　□６学級以下　・７～１２学級
□１３～１８学級　□１９～２４学級
□２５学級以上

【指導体制】　・少人数指導　・Ｔ．Ｔによる指導
□一部教科担任制　□その他

【研究教科】　□国語　□社会　・算数　・理科
□生活　□音楽　□図画工作　□家庭
□体育　□その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】　・有　□無